石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第330号　平成23年4月1日発行

■ 花鳥の美　―絵画と調度―　　前田育徳会尊經閣文庫分館

■ 花鳥の美　―絵画と工芸―　　第２展示室

堆黒花鳥図輪花鉢　明14世紀

■ 第67回現代美術展

- 企画展Topics
- 平成22年度のコレクション展示室を振り返って
- 平成23年度の普及事業
- 展覧会回顧　「石川・富山の美100選」「移動美術展」
- ミュージアムレポート
- 今年度バスツアーのお知らせ
- 行事案内
- ミュージアムショップ通信

前田育徳会尊経閣文庫分館

花鳥の美
―絵画と調度―

4月1日（金）～4月19日（火）会期中無休

春は、華麗に咲き誇る花に、心和ませる季節の始まりであるといわれます。それとともに、鳥のさえずりに象徴されるように、躍動の季節の始まりでもあります。長く厳しかった冬の後に、春の訪れを心から待ちわび、喜びを持って迎えられる方も多いことと思います。

自然とともに暮らし、自然との深い関わりの中で文化を育んできた日本人には、和歌に代表されるように自然に心情を重ねて表現するという伝統があります。美術作品にもその傾向が見られ、花鳥風月を表現する作品が好まれて制作されてきました。

花と鳥を描く花鳥画は、自然を室内において身近に共有できる最も一般的なテーマとして広く見られます。四季の変化を花鳥に託することで、日々の生活に彩りを添えるものとしてもてはやされました。また、花の輝きや鳥の躍動美などの景観を描き留めて目を楽しませてくれるものでもありました。さらには文学や仏教・儒教思想などとも結びつき、寓意・庭訓・鑑戒を表す画題のモチーフとしても利用されてきました。一方で、吉祥的な意味合いを持つ花木とともに、つがいや親子の鳥を描くことで、不老長寿や夫婦和合、子孫繁栄などをそこに託していったとも考えられます。

今回の展示では、山本梅逸筆「林和靖・花鳥図」、王若水「花鳥図」のほか、鶴・雁・鴨をはじめとする鳥を、細部にわたって精緻に描いた「鳥図画帖」、加賀藩御用絵師 六代梅田九栄の「鷹狩図絵巻」などを紹介します。

鳥図画帖

第２展示室

花鳥の美
―絵画と工芸―

4月1日（金）～4月19日（火）会期中無休

今冬の寒くて長い季節にようやく終わりを告げ、自然の息吹に確かな春の訪れを感じられるようになりました。日本人は四季の移り変わりにとても敏感であり、自然に対して畏敬の念を持つとともに、そうした自然観を絵画や工芸にストレートに表現してきました。今月の古美術展示室では、桜と牡丹を主要モチーフとして様々に表現された春を紹介いたします。

「日本の花」の代名詞ともなっている桜は、春を象徴する花でもあります。それは、春が出会いと別れの季節であり、人生の大きな節目に咲く桜は、日本人にとって特別な存在といえましょう。また冬の寒さの中でエネルギーを蓄え、全生命力をかけて美しい花を咲かせる営みに、人の世の道標と捉えることもできるのではないでしょうか。

一方の牡丹は中国では唐の時代より「花の王」として愛でられたといわれ、「富貴草」「富貴花」「深見草」「忘れ草」など種々の名前が付けられているように、気品ある美しさは美人の象徴ともされています。

兼六園のお花見を兼ねて美術館へもお立ち寄りいただき、日本と中国の美意識から生まれた絵画、陶芸、漆芸の作品を通して春の息吹を感じていただければ幸いです。

県文　青手桜花散文平鉢　古九谷

企画展Topics〈2〉
セルフ・ポートレイト展―キャンバスの中の巨匠たち―

平成23年4月24日(日)～6月12日(日)会期中無休

〝あの画家はどんな顔?〟作品はよく知っていても、顔は思い浮かばないということが案外多いのではないでしょうか。画家達のセルフ・ポートレイトを前にして、「この画家はこんな顔をしていたのか。絵の印象とピッタリだ」とか「ちょっとイメージしていたのと違っているな」などと思いを巡らせて会場を回ることは、普段の作品鑑賞とは少し異なりますが、なかなか楽しいものではないでしょうか。憧れのアーティストに会って、心をときめかせるファンの心理状態に喩えては、ミーハーに過ぎると言われそうですが、本人の顔を知れば作品に対する思いや見方に変化が生じることは間違いありません。

そして、今回の展覧会ではもう一つ、画家を知るためのアイテムを展示します。それはパレットです。よく使い込まれたパレットは美しく魅力に溢れています。この小さな板の上で画家が色を調合し、数々の作品を生み出したのだと思うと、つい引き込まれ、見飽きることがありません。きれいに拭かれたパレットもあれば、絵具がオブジェのように盛り上ったものもあります。大きさも色数も配色の順列も様々ですし、作品同様個性に溢れているのです。つまり画家の性格を示すとともに、色彩の秘密をもうかがわせてくれるのです。そういう意味ではパレットは画家のセルフ・ポートレイトと言って過言ではありません。本作品を前に、あるいは思い起こしながらパレットをご覧いただければ、尽きることなく感興が湧き出でることでしょう。

鴨居　玲　パレット　1968年

第六十七回　現代美術展

四月二日(土)～十九日(火)会期中無休
(第3～9展示室)

昭和二十年十月に第一回展を開催して以来、毎年行われています現代美術展は、今年六十七回を迎えます。本展では所属会派を超えて、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の六部門から、文化功労者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめとする財団法人石川県美術文化協会役員・会員の秀作に加え、一般公募からの入賞・入選の意欲作が一堂に展示されます。

部門　洋画　(第7・8・9展示室)
工芸　(第3・5・6展示室)
写真　(第4展示室)

金沢21世紀美術館では日本画・彫刻・書が展示されます。

入場料(金沢21世紀美術館と共用)

観覧料	一般	大高生	中小生
当日	一〇〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
前売り	九〇〇円	五〇〇円	四〇〇円
団体	八〇〇円	四〇〇円	三〇〇円

団体は二〇名以上

作品解説　会期中、作品解説を行います。

開館時間　午前九時三〇分～午後六時
毎週金曜・土曜日は午後八時まで開館

※当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

平成22年度の

コレクション展示室を振り返って

コレクション展示室では、展示にあたって月ごとにテーマを設け、さらに特別陳列と特集展示を行いました。

前田育徳会尊經閣文庫分館では、特別陳列として九月に**「加賀藩の美術工芸」**を行い、前田家三代利常から五代綱紀にかけて収集育成された優れた文物や美術工芸品を中心に、重要文化財五件を含む四十三件を展示しました。十月には**「万葉集の世界―平城遷都一三〇〇年―」**として前田育徳会所蔵の『金沢本万葉集』とともに、重文の手鑑「野辺のみどり」を展示しました。主に利常が収集したと思われる古筆切の中に、『金沢本万葉集』の断簡や『桂宮本』の断簡である『栂尾切』が含まれているため、併せて展示したものです。第2展示室では二月に**「刀剣の美　加州刀を中心に」**の特集展示を行いました。

近現代美術では、二つの特別陳列を開催しました。第5・6展示室では七月に**「徳田八十吉三代展」**。前年八月に惜しまれながら逝去された三代八十吉氏の一周忌を迎えるにあたり、初代・二代の作品を併せて三人の代表作約六十点を展示し、優れた技と美の世界をご覧いただきました。九月には第4展示室で**「アメリカで活躍した日本人画家 東典男の世界」**を開催しました。東氏は昭和三年三重県に生まれ、金沢美術工芸短期大学油絵科を卒業して一九五五年に渡米し、二〇〇四年に亡くなるまで、ニューヨークを拠点に活躍しました。氏の半世紀に及ぶ創作の歩みを、金沢時代の初期の作品から晩年の作品まで、油彩画・素描など四十点余の代表作により画業の全貌を窺うものでした。

特集展示は、併せて八本開催しました。第3展示室では、十月と二月に**「開 光市展」**、**「前田昌彦展」**（油彩画）を行いました。昨年に続き一九五〇年代生まれで現在活躍中の二人を紹介したものでした。第4展示室では六月に開催した**「松本昇遺作展」**（油彩画）は氏の没後一周年を機に、五十年に及ぶ創作の歩みを、初期から絶筆にいたるまでの作品で紹介。十二月には**「見透せぬ窓・前田さなみ展」**（油彩画）は、虚像と実像を交錯させて、社会的テーマを描き続ける創作の歩みを展示。ほかに一月は**「近代彫刻―空間と構成の美」**、第6展示室では十月に**「系譜でみる近代日本画」**を行いました。第5展示室では一月の**「香りをかざる―現代の香道具―」**で、香の道具の中から特に香炉、香合、香盆の優品を展示しました。

七月には、恒例になった夏休み親子で楽しむ美術館を**「ふしぎがいっぱい」**というテーマで行いました。お子様に、〝あなたが選ぶふしぎ度ナンバー1の作品やお気に入りの作品〟を書いていただき、展示室内におかれたファイルに納め、展示室を訪れたお客様にも公開しました。年齢も五歳から高校生まで様々な方々の感じる心に出会えるファイルになっていました。作品のとらえ方や新しい発見があり、そのファイルを読むのもなかなか楽しいと好評でした。

コレクション展示室は毎月第一月曜日が無料です。これを機会に是非コレクション展示室をご利用ください。

徳田八十吉三代展

アメリカで活躍した日本人画家
東典男の世界

親子で楽しむ美術館
「ふしぎがいっぱい」

平成23年度の普及事業

新年度を迎えました。平成二十三年度の普及事業をご案内します。いずれも午後一時三〇分から行います。

「土曜講座」は九月から十二月に開催する秋のシリーズを、共通テーマによる連続講座とします。どなたでも受講できますが、県民大学校の専門講座の一つともなりますので、その場合は県民大学校受講の手続きをして下さい。もちろん、申し込み無しでそのうちの一回だけを受講することもできます。また従来、学芸員が自らの研究テーマをもとに、講座を行ってきましたが、こうした内容の講座は、五月から七月までと明年一月以降に実施します。

企画展での「ギャラリー・トーク」は、この行事だけ時間が変わって、日曜日の午前を予定しています。毎月展示内容の変わるコレクション展示室の作品は、土曜講座のなかで解説する場合があります。こうした展示室での作品解説を含む場合は、入場料金が必要となります。

「キッズ☆プログラム」は、制作体験と鑑賞講座を行います。制作は夏休みに行いますが、事前の申し込みが必要です。鑑賞は申し込み不要で、コレクション展示室の作品を中心に、親子で語り合いながら鑑賞します。ご家族そろっての来場をお待ちしています。

一般向けのワークショップとして、五月八日に「鉛筆で描く　木下晋さんのセルフ・ポートレイト講座」を行います。事前申し込みが必要です。

「加賀百万石文化講座」は加賀藩主の生活や尊經閣文庫を中心に行います。ほかに企画展覧会に併せた講演会も予定しています。「文化財現地見学」や「美術館バスツアー」など盛り沢山のプログラムとなりますが、詳しくは毎月の「美術館だより」でご確認下さい。

この春　各地で注目の展覧会

◆京都

「親鸞展　生涯とゆかりの名宝」

三月十七日（木）～五月二十九日（日）
京都市美術館
京都市左京区岡崎円勝寺町一二四
TEL　〇七五―七七一―四一〇七

親鸞聖人の七五〇回忌を記念する本展では、国宝九件、重文三十六件を含む約一三十件の法宝物が公開されます。親鸞聖人の肖像画や真筆の著書などが一堂に集まる貴重な機会です。

◆滋賀

春季特別展「長沢芦雪　奇は新なり」

三月十二日（土）～六月五日（日）
MIHO MUSEUM
甲賀市信楽町桃谷三〇〇
TEL　〇七四八―八二―三四一一

奇想の画家ともいわれる長沢芦雪。その奇抜で機知に富んだ表現を、「虎図襖」「富士越鶴図」をはじめとする代表作品や、初公開作品などから紹介しています。

※三月十一日の地震のため、東北・関東の美術館・博物館で臨時休館しているところがあります。お出かけ前にそれぞれへお問い合わせ下さい。

情報・図書コーナーの利用時間

午後一時～午後五時

午前中は閉室となります。
ご了承下さい。（四月一日より）

展覧会回顧

「石川・富山の美100選」「移動美術展」

石川・富山の美100選

秋に開催した「加越能の美術」の第二弾としての位置づけでした。ところが「加越能」ということばに馴染みが薄く、非常にわかりにくいとの指摘もあって、明治から現代までの作品を展示する近現代美術の展覧会の主タイトルを「石川・富山の美100選」と名付けました。

明治時代、加賀藩の文化政策として進められてきた文化的発展が明治維新で途絶えることになりました。ところが、ここで以前と大きく異なったのは、海外での万国博覧会で好評を博したり、輸出産業として脚光を浴びたり、また殖産興業の一躍を担ったりしたものが現れたことでした。その結果、職人や画工が作家としての意識を強く持ち始め、今日のいわゆる〝芸術家〟という存在が誕生してきました。

このように大きく転換する明治期を起点に、大正・昭和を経て現代に至る石川・富山両県の美術工芸が、どのように展開していったのか。それを各部門・各時代等のなかで、石川県のこの作家と富山県のこの作家、名匠・名工、というように比較対照しながら、鑑賞していくことにより、ご覧になった方は、一層理解が深まったと思います。一方、風土と美術の関連性や今後の展望をも予測させる一面も見られ、石川・富山の持つ文化や芸術性の違いも感じられたかとも思います。

全国的に評価される両県の作家達の代表作を展示することにより、ここまで刺激を受け合い、切磋琢磨しながら展開してきた両県美術工芸の歴史と現状を紹介できたものと確信しています。郷土の文化に対する理解と愛着をより深め、この地の優れた美術工芸の歴史を未来に繋ぐことを目的として開催しました。本展覧会開催にあたり、ご協力をいただいた所蔵先各位、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

移動美術展

二十四回目となる今年度の移動美術展は、二月十二日から二十日まで、能美市で開催されました。会場は、能美市根上学習センターで、四十二点の県立美術館所蔵作品を展示しました。作品の内訳は、絵画（日本画、油彩画、アクリル画、水彩画、鉛筆画）二十点、浮世絵版画八点、彫塑六点、工芸（陶磁、漆工、金工、木工、人形、截金）八点で、今回特別に地元の彫刻作家・谷村俊英氏の作品もまじえて、さまざまな素材・技法・表現を鑑賞していただきました。

今回は、多くの小中高生の団体鑑賞が予定されていたため、移動壁面と仮設の展示パネル、移動ガラスケースの配置を工夫し、会場内をぐるっとまわるような導線を考えました。団体鑑賞の際は、入り口から時計回りに鑑賞していくように案内し、会場内での混雑をできるだけ緩和しました。会期中には千三百名を超える児童生徒、また同じく千三百名を超える一般市民の方が来場し、連日賑わいを見せていました。

本展の開催には、地元の市関係者はもとより、美術作家協会の方々に多大なご協力を賜りました。また、地元の中学校・高校の美術部員が事前に移動美術展の解説番組を作成し、ケーブルテレビで放映するなど、従来にない形での取り組みもしていただきました。

ここに改めて本展の開催にあたり、種々ご協力いただいた関係の方々に、お礼申し上げます。

ミュージアムレポート

キッズ☆プログラム　お殿様の文房具

三月六日（日）、前田育徳会尊經閣文庫分館の「前田家の天神信仰と文房具」の展示を鑑賞するキッズ☆プログラム「お殿様の文房具」が行われました。最初に参加者の方々に、自分たちが使っている文房具やその中にお気に入りの文房具があるかなどのお話を伺い、今の文房具とお殿様の文房具を比較して見ていただくことにしました。展示室ではワークシートを使いながら、「前田のお殿様たちの時代は何で字を書いていたの？」をヒントに「文房四宝」といわれた文房具の大切な道具の紙・墨・筆・硯を見つけ出し、その後、いろいろな道具の名前と使い道を探し出しました。お殿様の文房具の中には、きれいな模様で飾られたものや動物の形をしたものなどがあります。一国を治める大きな仕事をしていたお殿様。そんな道具を自分の側に置きながら心和ませていたのかもしれません。参加した皆さんも展示されているお殿様の文房具の中から「自分の机にも置いてみたいなあ」と思うようなお気に入りの道具を見つけ出したようです。来年度もこのような展示に合わせた鑑賞のキッズ☆プログラムを行う予定です。皆様の御参加をお待ち申し上げております。

行事案内

セルフ・ポートレイト展関連行事

●記念講演会

日　時　四月二十四日(日)午後一時三〇分～
会　場　美術館ホール（聴講無料）
講　師　長谷川徳七氏・長谷川智恵子氏
　　日動画廊社長・副社長
演　題　「素顔の作家たち」

●ワークショップ　鉛筆で描く

木下晋さんによるセルフ・ポートレイト講座
日　時　五月八日(日)午前十時～午後四時
講　師　木下 晋 氏
　　（画家・金沢美術工芸大学教授）
会　場　美術館講義室
対　象　中学生以上二〇名
参加費　四〇〇円
申込方法
四月二十七日（水）まで（当日消印有効）に、往復はがき（一人一枚）に住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、返信用あて名を記入し、当館セルフ・ポートレイト係へ。（応募多数の場合は抽選）

●学芸員によるギャラリートーク

毎週　日曜日午前十一時～

兼六園周辺文化の森さくらめぐり

美術館イベント「ビデオ上映会」
「正倉院宝物」
日　時　四月九日(土)午後一時三〇分～四時

今年度 バスツアーのお知らせ

今年度のバスツアーは六月下旬に能登方面を予定しています。総持寺を中心に寺社等の文化財を巡ります。詳細はいずれ掲載いたします。

次回の展覧会

前田育徳会尊經閣文庫分館	第2展示室	第4展示室	第7～9展示室
百万石大名の装い ―甲冑と陣羽織―	長谷川等伯とその周辺	［彫刻］顔～様々な表情～	セルフ・ポートレイト展 ～キャンバスの中の巨匠たち～
5月11日(水)～7月12日(火)	5月11日(水)～6月12日(日)	4月24日(日)～6月12日(日)	

企画展Topics

セルフ・ポートレイト展 —キャンバスの中の巨匠たち—

平成23年4月24日(日)〜6月12日(日)会期中無休

北川良次「画家の肖像」1931年

萬　鉄五郎「自画像」

安井曾太郎「自画像」1913年

鴨居　玲「肖像」1985年

林　武「自画像」1970年

高光一也「山の自画像」1943年

ミュージアムショップ通信

普段は、ディスカウントショップで買った一枚数十円のクリアファイルを使っています。安いし、便利。無くなっても気にならない。でも裏を返せば、面白味に欠けるし、無くしたくないものには不適かも。中身が丸見えなのでプライベートな書類を入れたり、人前で使ったりするにもちょっとなあ、とも思います。そんな時に美術館のファイルが重宝しています。今回、古九谷のデザインが一新し、守景の「笹に兎図」もラインナップに追加されました。

右上／古九谷
左上／笹に兎図
右下／色変鶴菱文唐織
各三〇〇円

ご利用案内

コレクション展観覧料

一　般　350円（280円）
大学生　280円（220円）
高校生以下　無料
※（　）内は団体料金

4月の開館時間

午前9：30〜午後6：00
（2日・8日・9日・15日・16日は午後8：00まで開館）

カフェ営業時間

午前10：00〜午後7：00

石川県立美術館だより 第330号
2011年4月1日発行〈毎月発行〉

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580　Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

4月の休館日は
20日(水)〜23日(土)です

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています